

Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 100407132-1



www.hiroki-yoshimoto.com

Race Report

03-04 April, 2010 (Okayama)



10' SUPER GT SERIES Round 2 (Okayama)
03-04 April, 2010

(Free Practice & Qualify)

公式練習 天候：晴 路面：ドライ
公式予選 天候：晴 路面：ドライ | 気温：14℃ | 路面温度：23℃ (ノックダウン予選開始時)

仕切り直しの第2戦、triple a Vantage GT2は初の予選S3進出

鈴鹿で開催された開幕戦から2週間。2010年のスーパーGTシリーズは岡山国際サーキットへと舞台を移し第2戦を迎える事となった。大きな注目を集めながら挑んだ開幕戦ではまさかの結果に終わったtriple a Vantage GT2。それでもチーム&ドライバーは気持ちを新たにこの岡山へとやってきた。そして迎えた公式練習1回目。

曇り空の下、この時期にしては気温も低くなった岡山国際サーキット。この公式練習でまずマシンに乗り込んだのは吉本大樹。ところがtriple a Vantage GT2にはこの第2戦でも試練が待ち構えていた。公式練習の1回目、2回目こそタイム的には8番手、9番手、開幕戦から変更した足回りのセットアップもますますの状態になっていたものの、マシンにわずかな違和感を感じていた吉本大樹と松田選手。すると午後に入り行われた公式予選では、この違和感が完全なマシントラブルとなって出てきてしまう。



今回の予選は開幕戦と同じノックダウン方式。公式予選1回目は決勝のグリッドには影響しないものの、後のノックダウン予選に出るためには両ドライバーが基準タイムをクリアする事が必要になる。ところがその公式予選1回目、最初にステアリングを握った松田選手は計測3周目に1'35"619をマーク、基準タイムをクリアしピットへと戻ってきたものの、マシンはその松田選手がピットを後にした時点でエンジンから異音が出始めており、吉本がアタック入るころにはこのトラブルがさらに悪化。エンジンは急速にパワーを失っていくと、ストレートでも全くスピードが出ず、トラブルの原因を探るためにピットイン・アウトを繰り返すことに。「このままでは吉本が基準タイムをクリア出来ないのでは・・・？」という程深刻な状態になったものの、吉本はパワーを完全に失ったマシンで無理やり1周のみのアタックを行い辛うじて1'36"666のタイムをマーク、何とか基準タイムをクリアする事に成功した。

薄氷の基準タイムクリアを演じたtriple a Vantage GT2。しかしその後もトラブルの原因を究明する事が出来ず、考えられる応急処置を施した状態で迎えたノックダウン予選S1セッション。ここでステアリングを握ったのは松田選手。その松田選手は、良くはなったもののトラブルが完全に消えたとは言えないマシンを巧みに操り最後の最後アタックでベストタイムをマーク、S2に進むにはギリギリの16番手につけ何とかS2へと進出する。すると今度はS2セッションで吉本がスーパーラップを決めて見せる。「本当にあの一周だけだったけど症状が少しマシで、同時に限界のアタックをキメられた」というラップでマークしたタイムは1'31"960。なんとこのセッション4番手につけ、見事S3へと駒を進める事に成功する。最後のS3セッションでは、マシンがトラブルを抱えていた事や決勝を睨んだタイヤ選択をした事で10番手となったものの、終わってみれば基準タイムクリアすら危ぶまれた状態から決勝10番グリッド獲得するという、翌日の決勝での巻き返しを期待させるに十分な結果で予選を終了する事となった。

03 April, 2010
10' SUPER GT SERIES Round_2 Qualify / Okayama
Text : www.hiroki-yoshimoto.com

PERSONAL SPONSORS

S&I

Osaka Hall

金剛防災

FUDOH

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

ASK CORPORATION

PARTNERS

SIDEWINDERS

Arai

ARD
MOTORSPORT PRODUCTS

B BUTI

UNLIMITED Co., Ltd

大阪府大阪市北区豊崎3-8-5
朝日プラザビル梅田II 408

TEL : (81) 06-6136-3416

FAX : (81) 06-6136-3426

e mail : info@unlimited-sports.co.jp

official site : www.hiroki-yoshimoto.com



Race Report

03-04 April, 2010 (Okayama)



10' SUPER GT SERIES Round 2 (Okayama)
03-04 April, 2010

(Final)

天候：晴れ | 路面：ドライ 気温：17℃ | 路面温度：28℃ (決勝開始時)

triple a Vantage GT2、トラブルでスタートを切れずも、15位完走

前日ほど気温も下がらず、晴天に恵まれ迎えた決勝日。前日予選ではトラブルを抱えたままで見事S3進出を果たしたtriple a Vantage GT2。しかしその後、メカニックは夜を徹してトラブルの原因究明に取りかかったものの、結局最後までトラブルの原因を特定する事が出来ず。朝のフリー走行でもまともに周回を重ねる事が出来ないまま決勝のスタートを迎える事となってしまった。

今回トラブルを抱えたアストンマーティンのエンジンは英国のプロドライブ製で、チームは国内でのエンジンメンテナンスに関してはどこにも契約を結んでいない。故に今回の様なトラブルをレースウィーク中に解消するのは困難を極める。それでもその状況下、チームはあきらめる事無く決勝直前まで様々な解決策を試し、更にはトラブル解決の為の情報収集に吉本、松田の両ドライバーまでもがパドックを走り回る。しかし無情にも解決への決定打となる処置が見つからぬままマシンはスターティンググリッドに着く事に。マシンの状態はレースを完走出来る状態にはなく、スタート前のグリッド上ながら「開幕戦に続いてリタイヤか…」という雰囲気すら流れ始める。



するとここでスタートを務める予定であった吉本が、「このままスタートしてリタイヤするより、可能性があるのならその可能性に賭けてピットにマシンを戻し、最後に考えられる処置をしてレースに戻ろう」とチームに提案。ピットスタートとなれば当然10番グリッドは捨てる事になり、良くても全車が1コーナーを過ぎた後、すなわち最後尾からのスタートという事になる。更にはピットスタートを選択したからといってトラブルが解消される保証はどこにもない。それでもチームは吉本の強い提案を受け入れマシンをピットに押し戻すことを選択。スタート時刻が刻一刻と近づく中、前日からほとんど休みなく作業を続けてきたメカニック達が最後の望みを託しマシンへと応急処置を施していく。作業はレースがスタートして6周目が過ぎたところで完了。エンジンに火が入られると、triple a Vantage GT2のV8エンジンは前日から続いた点火系のトラブルを解消し息を吹き返した。この時点で勝負権は完全に失ってしまっていたものの、チーム、ドライバー、メカニックスタッフ達は微塵もあきらめを感じさせる事無くレースに復帰した。

すると6周遅れでレースをスタートさせた吉本は、チームの頑張りに応える素晴らしい走りを披露。コースイン直後に無線で「エンジンちゃんと回ってる！」との報告を入れた以降は懸念されたマシントラブルについての無線報告はなく、さらに予選S2を彷彿させる走りで行くマシンとほぼ変わらないラップタイムを連発していく。結局吉本はそのまま45周を好ペースで走り切り、その後松田選手にドライバーチェンジ。するとその松田選手も今回のレースを制した#46 (アップスタート MOLA Z) をコース上でオーバーテイクするなど、ポジション的には大幅な周回遅れであったものの意地の走りを披露。最終的にそのまま6周遅れでレースを走りきったtriple a Vantage GT2は、結果15位ながら、スタートすら危ぶまれた状況から一転、見事なレースを見せ今シーズン初の完走を堂々と果たした。

PERSONAL SPONSORS

S&I

Osaka Hall

金剛防災

FUDOH

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

CORPORATION
ASK

PARTNERS

SIDEWINDERS

Arai

ARD
MOTORSPORT PRODUCTS

B
BUTI

UNLIMITED Co., Ltd

大阪府大阪市北区豊崎3-8-5
朝日プラザビル梅田II 408

TEL : (81) 06-6136-3416

FAX : (81) 06-6136-3426

e mail : info@unlimited-sports.co.jp

official site : www.hiroki-yoshimoto.com

Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 100407132-3



www.hiroki-yoshimoto.com

Race Report

03-04 April, 2010 (Okayama)

リザルト / Result

(Free Practice 1-2 / 10.04.03)

No.	Team	Pos.	Best Time	Gap	Laps
66	triple a Vantage GT2	8 th	1'33"598	1.835	-
66	triple a Vantage GT2	9 th	1'33"462	1.293	-

(Qualify AM Session-S1-S2-S3 / 10.04.03)

No.	Team	Pos.	Time	Gap	Laps
66	triple a Vantage GT2	17 th	1'35"619	2.849	-
66	triple a Vantage GT2 (HIDESHI MATSUDA)	16 th	1'33"212	1.178	-
66	triple a Vantage GT2 (HIROKI YOSHIMOTO)	4 th	1'31"960	0.878	-
66	triple a Vantage GT2 (HIDESHI MATSUDA)	10 th	1'33"477	2.136	-

(Free Practice - Final / 10.04.04)

No.	Team	Pos.	Laps	pt	Total Time
66	triple a Vantage GT2	19 th	-	-	-
66	triple a Vantage GT2	15 th	70	0	2.03'18"597

吉本大樹 / Hiroki Yoshimoto

これまでシェイクダウン、プライベートテスト、合同テスト、開幕戦とよく考えると全て鈴鹿でした。だから岡山に来て急にエンジンが不調になった原因が解らず、本当にメカニックは大変だったと思います。

今回は殆どセットなんてする余裕も無かったですから、岡山に持ち込んだセットがほぼキマっていた事にも助けられて予選は8気筒の内7気筒しか動いていない中でギリギリ基準タイムをクリアしました。ノックダウンの時はバラつく程度に回復していた事と、アタックラップだけ更に調子が良くて良いタイムが出せました。これは「週末の奇跡その一」です。



ただ、何が問題かという点、このノックダウンで調子が良くなったこと。これを理由に我々は更にどこに原因があるのかの判断が難しくなりました。メカニックは殆ど徹夜で作業してくれたにも関わらず、無情にも日曜日のフリー走行は相変わらず7気筒しか動いていない状態。8つある内の1つとはいえ、バランスも崩ればパワーも大幅にダウン、更にはエンジンにダメージを与えてしまう。決勝前に松田さんの親友のエンジン屋さんに見てもらった事で原因がほぼ解り、その後はひたすら全員で動きまわりました。それでもピットレーンオープンまでにマシンが直ることはありませんでした。グリッドに着く段階でもやはり7気筒。このままでは良くても2~3周しか出来ないし、まずレースにはなりません。それにエンジンも完全に壊れてしまうかもしれないということでピットにマシンを押し戻す決断をしました。

スタートまでの30分間が作業にあてられた事は大きかったです。本当に短い30分間でした。レースはスタートしてしまっていたけど、6周遅れでレースに復帰できたことは本当に嬉しかったです。チーム全体が完全に一つになっていました。レース中は好ペースで走れました。正直「普通にスタートしていたならば…」と思う部分もありますが、逆に言うことで次から更に自信を持って戦えます。結果は無くとも本当に意味のある最高の週末だったと思います。

スペアパーツはありません。エンジンやECUを見る為にプロドライブから常にスタッフが来るわけでもありません。データもあまりありません。ピカピカの一年生です。けど第3戦は優勝しにいきます。A speedが頂きます。引き続きA speedの応援宜しくお願いします！

PERSONAL SPONSORS

PARTNERS

UNLIMITED Co., Ltd

大阪府大阪市北区豊崎3-8-5
朝日プラザビル梅田II 408

TEL : (81) 06-6136-3416

FAX : (81) 06-6136-3426

e mail : info@unlimited sports.co.jp

official site : www.hiroki-yoshimoto.com